

1. 兵役

(※ 関連資料のある箇所は太字で示してあります。)

7. (3) 学問のすばらしさ

【木田】そうして**安倍さんのこの挨拶(資料 1-3)**を見たときに、本当に学問をやっている人は強いって、誰にでも言いたいことが言えるなあと感じました。就職して軍隊に行っていたら、留守家族はまだしかるべき処遇をもらっていたと思うんですが、何もしていないもんですから、早くどっかに勤めんならすが、しかしそれにしても、こういう学問で真実を追求するということのすばらしさといいますかね、それは本当に大変なことだ。そして、それがその人の力になっているんだなあということを感じたんです。それで、そういう学問のすばらしさということ、安倍能成さんには、オイケンの『大思想家の人生観』だったかという本があります(ルドルフ・オイケン著、安倍能成訳『大思想家の人生観』東亜堂書房、1912)。これもこっちへ来ていると思うんですが。そういうものにこう気を引かれたのがこの『**日本文化史概説**』(資料 1-4)という新書版みたいな本なんです。

昭和 16 年か 17 年ぐらいに出たのですね。私は学校でいろんな講義を聞かせていただくときに、中等学校の歴史の教科書というのにはうんざりをしましてね。どうしてこんなに人の名前と年代とを覚えさせるような歴史になっているんだと思ったんですが。初めて、ここ(資料 1-4)にもちょっと書きましたけれども、ランケの『世界史概観』(岩波書店 1941)というのを岩波文庫で読んでね、これは全然歴史が違うと思ったんですよ。こういう歴史でなきゃいかんと思って、少しずつ探しているときに、この村岡さんの小さい新書版のような本にぶつかったのです。読んでみて感激しましてね。私だけじゃなかったんですが、これは京都において専門の違うのがやっぱり東北まで講義を聞きに行ったとって、我々の仲間が言ってくれましたが。この村岡さんの本を読み出して、ああここに何か本当の歴史があるなあ、日本の文化というもののすばらしさがあるなあと思ったもんですから、この村岡さんには、『日本思想史研究』1・2・3・4 と 4 巻出たんです。

私どもが学生時代は、まだ 1 と 2 ぐらいしか出ていなかったかもしれませんが。それからもう一つ、村岡さんが始められた本居宣長の全集が、私は村岡さんの『本居宣長』という全集はこれは留守中に全部そろえておきたいと思ったもんですから、留守家族のところへそれを送ってもらうように岩波に頼んでですね、そして軍隊に行った。帰ってきてみたら、8 冊ぐらいしか来とらんですよ。岩波がサボったかなと思って聞いてみたら、結局 8 冊しか出なかったとって返事が来ましたがね。自来、村岡先生のおかげで本居宣長という国学のよさというのか、立派さという、「うひ山ぶみ」にしてもですね、本当にすばらしい学問の態度があの中に入っているというのを感じて感激したんです。まあそういうこともあったもんですから、**安倍先生のこの文章(資料 1-3)**を読んで、ああこれは日本にもいい大臣が出てきて、建て直しのこともやったださるなあというふうに思っていました。